

各 位

上場会社名 株式会社 精工技研
 代表者 代表取締役社長 上野 昌利
 (コード番号 6834)
 問合せ先責任者 経営企画室 チームリーダー 斎藤 祐司
 (TEL 047-388-6401)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,600	△240	△220	△220	△23.96
今回発表予想(B)	2,310	△507	△407	△338	△36.98
増減額(B-A)	△290	△267	△187	△118	
増減率(%)	△11.1	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,977	△75	39	35	3.90

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,200	△70	0	0	0.00
今回発表予想(B)	4,810	△950	△760	△700	△76.58
増減額(B-A)	△1,390	△880	△760	△700	
増減率(%)	△22.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	6,426	△710	△552	△857	△93.43

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,100	△210	△190	△190	△20.70
今回発表予想(B)	1,487	△565	△447	△381	△41.69
増減額(B-A)	△613	△355	△257	△191	
増減率(%)	△29.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,304	△234	△126	△123	△13.39

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,800	△130	△30	△30	△3.27
今回発表予想(B)	3,090	△1,080	△880	△820	△89.71
増減額(B-A)	△1,710	△950	△850	△790	
増減率(%)	△35.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	5,255	△929	△593	△871	△94.96

修正の理由

【連結業績予想数値の修正理由について】

1. 第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、昨年末からの金融・経済危機による景気低迷が続く中、各国の国家的な経済政策や在庫調整の進展から、一部に景気の下げ止まりを示唆する動きが見られたものの、全般的にはなお深刻な状況が続きました。精機事業においては、光ディスク金型のユーザーである成形メーカー各社の設備稼働が低調に推移し、金型メンテナンスの売上高が期初予想を大きく下回ることとなりました。また、当期からの業績貢献を見込んでいた高耐熱レンズは、携帯電話市場が低迷しているほか顧客の在庫調整が進まず、量産受注が遅れています。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は期初の予想を下回る見通しとなりました。

損益面においては、原価改善や経費削減等の収益改善活動に取り組んでいるものの、光ディスク金型メンテナンスや光コネクタ研磨機等の比較的採算性の良い製品の売上が振るわなかったことから、営業利益、経常利益、四半期純利益のいずれも期初の予想を下回る見通しとなりました。

2. 通期

世界を取り巻く経済環境は、第3四半期に入ってもなお不安定な状態が続いています。各国の景気刺激策の効果により一部には底打ち感があるものの、先行き不安から消費は依然として低迷しており、企業の設備投資も底ばいを続けています。当社グループを取り巻く環境も、第2四半期までの状況からの急速な回復は望みにくく、精機事業、光製品事業共に通期の損益は期初の計画を下回る見通しであります。

【個別業績予想数値の修正理由について】

1. 第2四半期累計期間

第2四半期累計期間の個別の業績につきましても、売上高が計画を下回る見通しであります。中でも光製品事業においては、中国の製造子会社から他の国に対して製品を販売する際、本社を経由しないサプライチェーンへの変更が、期初の計画以上に進みました。また、光コネクタ研磨機や光伝送装置等の製品売上が期初の見通しを下回ることとなりました。各種の経費削減策をはじめ、賞与の減額や一時帰休の実施、非正規社員の契約解除等の施策を講じておりますが、売上高が期初の計画を下回ったことを受けて個別業績における営業利益、経常利益、四半期純利益も計画を下回る見通しとなりました。

2. 通期

個別の通期業績見通しの修正理由は、連結の通期業績見通しの修正理由と同様であります。

(業績予想に関する留意事項)

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであります。最終の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上